

2025年9月期 第3四半期 決算補足説明資料

ティアンドエスグループ株式会社

(東証グロース 4055)

2025.8.14



T&S
Technology & Service

ハイライト	p. 3
決算概要	p. 4
営業利益の状況	p. 6
カテゴリー別売上高	p. 7
取引先別売上高	p. 8
四半期別売上高・営業利益	p. 9
主要取引先動向	p. 10
エンジニアの状況	p. 11
連結損益計算書	p. 12
連結貸借対照表	p. 13
業績予想進捗率	p. 14
株主還元	p. 16

(今期のテーマ) 何かが始まる

1 過去最高収益を継続(過去同四半期比)

売上高	:	30億 33百万円	(14.7%増↑	増加額: 389百万円)	(前年同四半期比) ※
営業利益	:	5億 33百万円	(15.6%増↑	増加額: 72百万円)	(同)
経常利益	:	5億 34百万円	(15.7%増↑	増加額: 72百万円)	(同)
四半期純利益	:	3億 51百万円	(11.0%増↑	増加額: 34百万円)	(同)

※ 決算期変更により前年3Qは12月から8月までの実績となっております。

2 AIソリューションが好調を持続。半導体、DXカテゴリーも堅調

- AIソリューションカテゴリーの売上高は324百万円となり、前年同期比40.6%と大幅増を継続。AI需要の高まりを背景に生成AIやエッジAIに関する引き合いが増加しました。
- 半導体ソリューションカテゴリーの売上高は前年同期比16.5%増の922百万円と堅調。半導体メーカーの業績回復に伴い、システム開発案件が増加しました。
- DXソリューションカテゴリーの売上高は前年同期比10.2%増の1,786百万円と安定成長。新規顧客や既存顧客との取引拡大に伴い、案件の新規受注、継続受注が増加しました。

3 累進配当を導入。期末配当予想を1株当たり10円に上方修正

- 配当政策を変更し、累進配当を導入。今後は原則として減配せず、維持若しくは増配を継続実施。
- 今期の期末配当予想を1株当たり8円から10円に修正。

決算概要

2025年9月期 第3四半期

決算概要(FY2025/3Q)

過去最高収益を継続

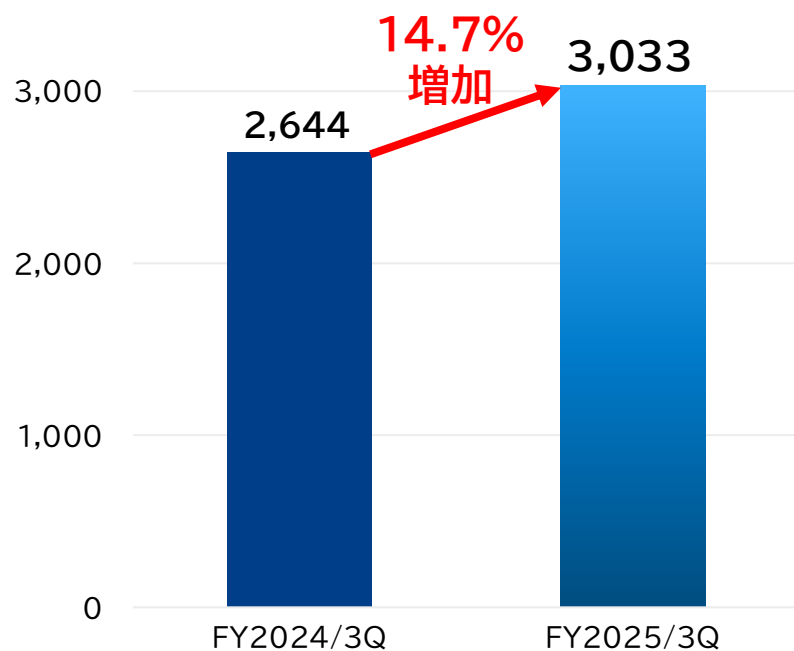
(過去同四半期比)

売上高	:	30億 33百万円	(14.7%増↑	増加額: 389百万円)	(前年同四半期比) ※
営業利益	:	5億 33百万円	(15.6%増↑	増加額: 72百万円)	(同)
経常利益	:	5億 34百万円	(15.7%増↑	増加額: 72百万円)	(同)
四半期純利益	:	3億 51百万円	(11.0%増↑	増加額: 34百万円)	(同)

※ 決算期変更により前年3Qは12月から8月までの実績となっております。

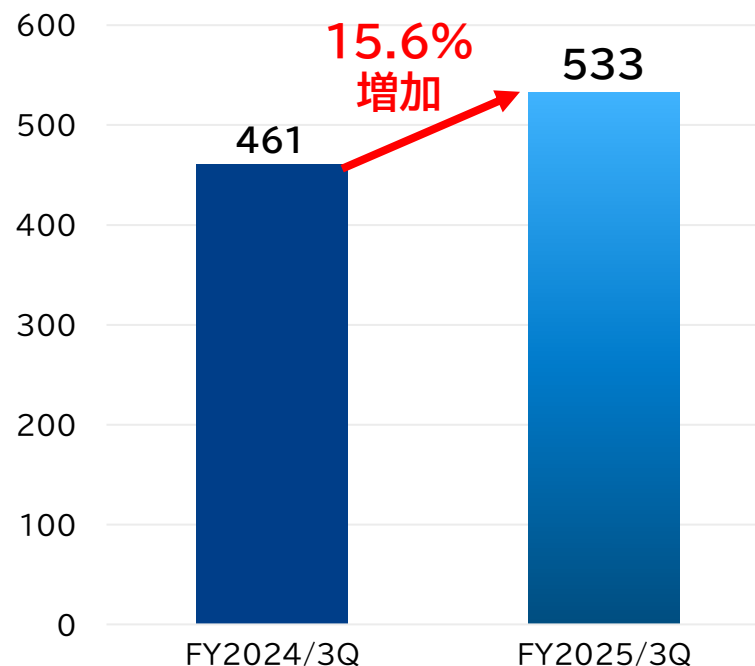
(単位:百万円)

売上高



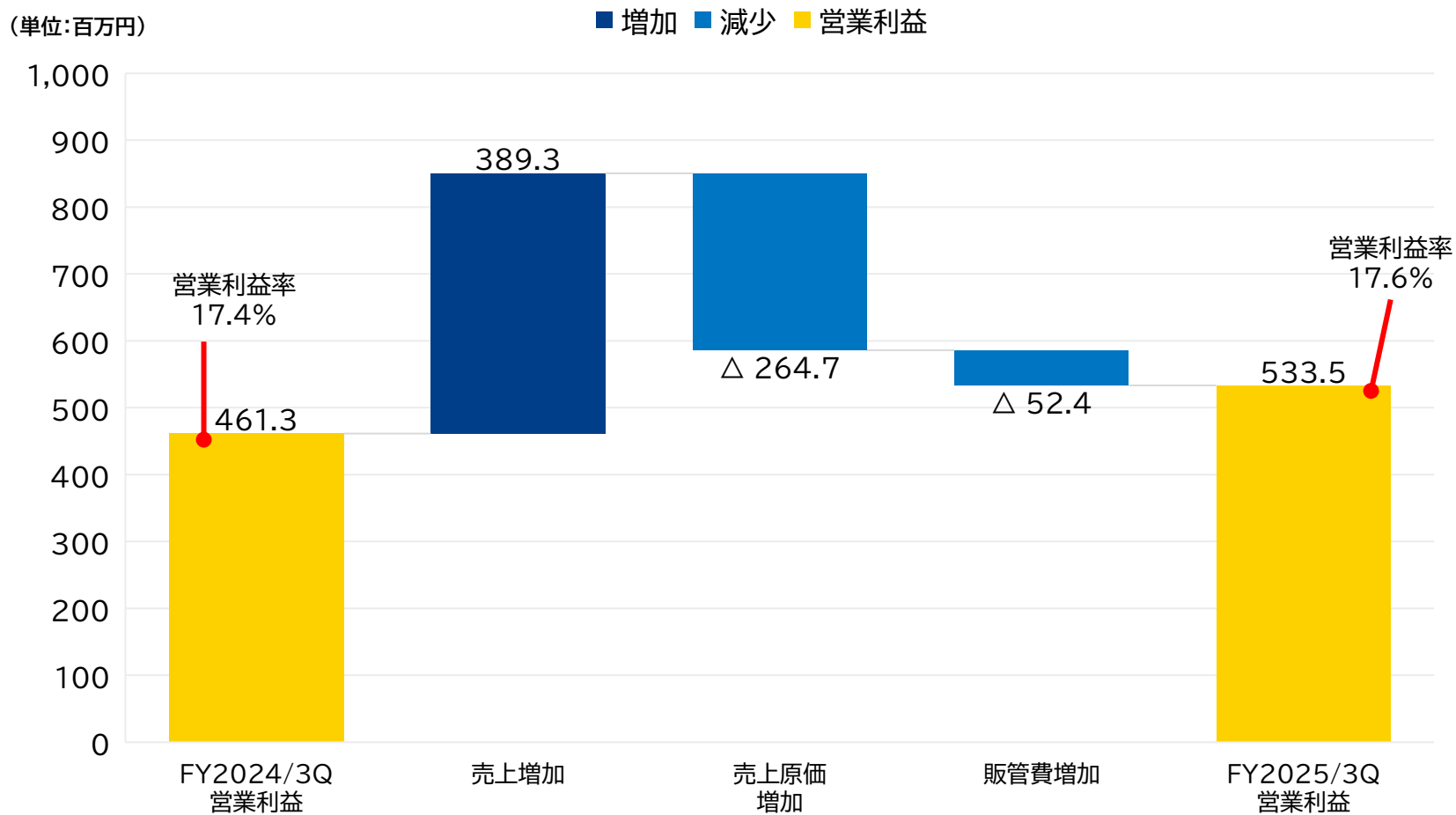
(単位:百万円)

営業利益



営業利益の状況(FY2025/3Q)

72百万円の営業利益増 (前年同四半期比)



カテゴリー別売上高(FY2025/3Q)

AIソリューションは**40.6%**の大幅増

(前年同四半期比)

半導体ソリューションは**16.5%増**と高成長を継続

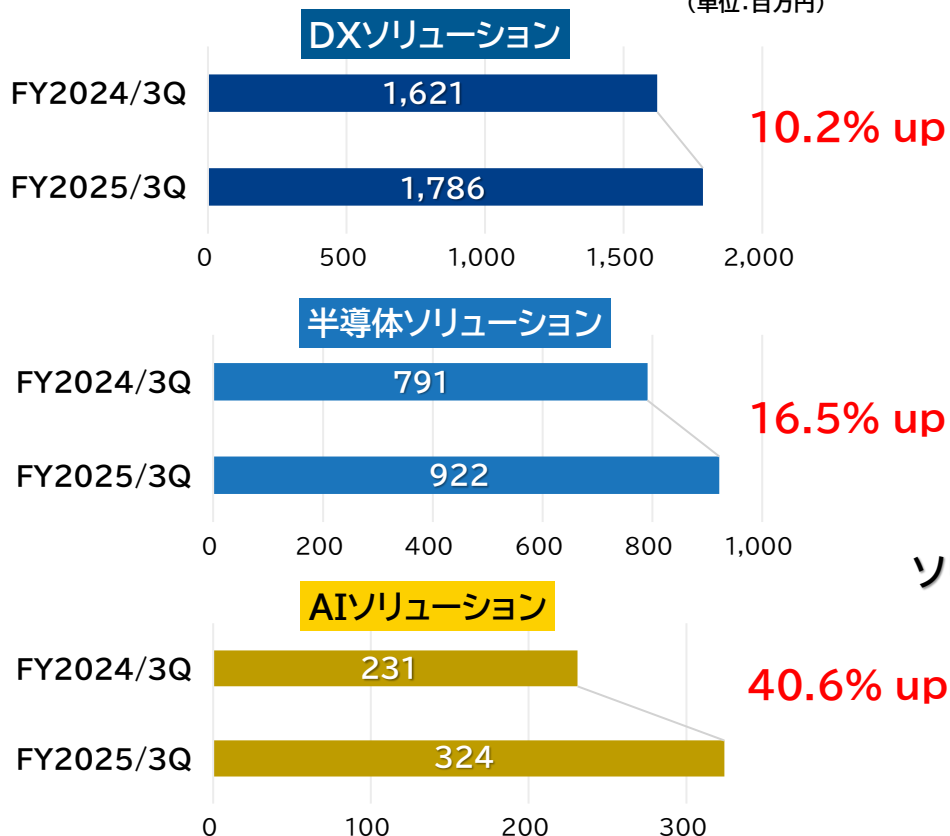
(前年同四半期比)

DXソリューションは**10.2%増**と堅調

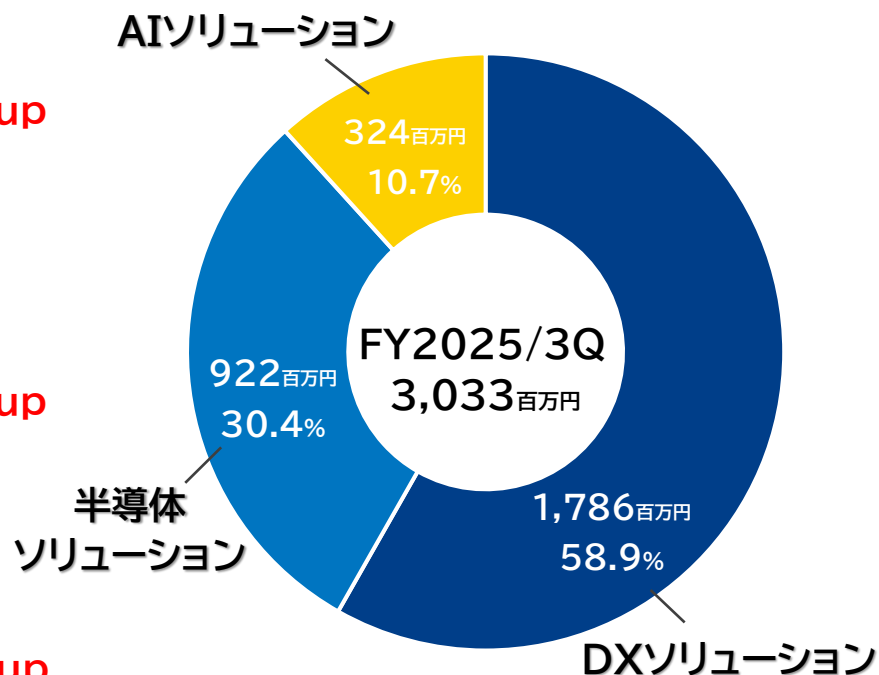
(前年同四半期比)

売上高(カテゴリー別) ※1

(単位:百万円)



売上比率(カテゴリー別) ※1

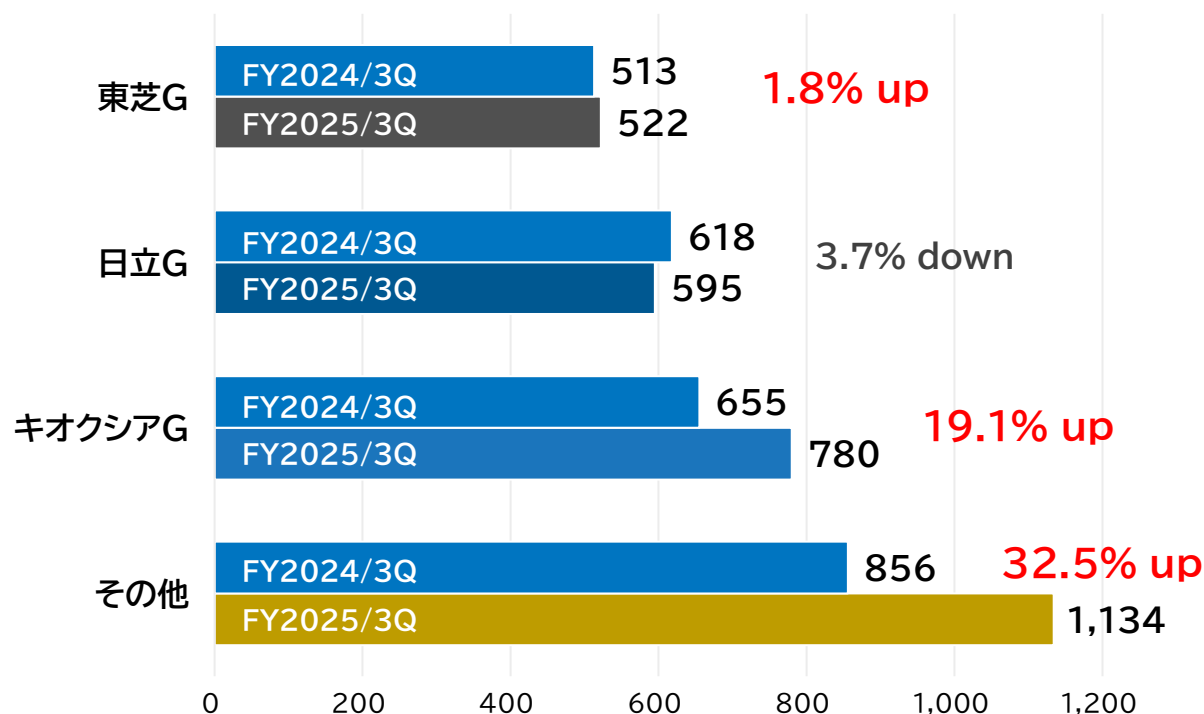


※1 当社グループの事業セグメントは単一セグメントです。
売上高のみカテゴリー別に集計しております。

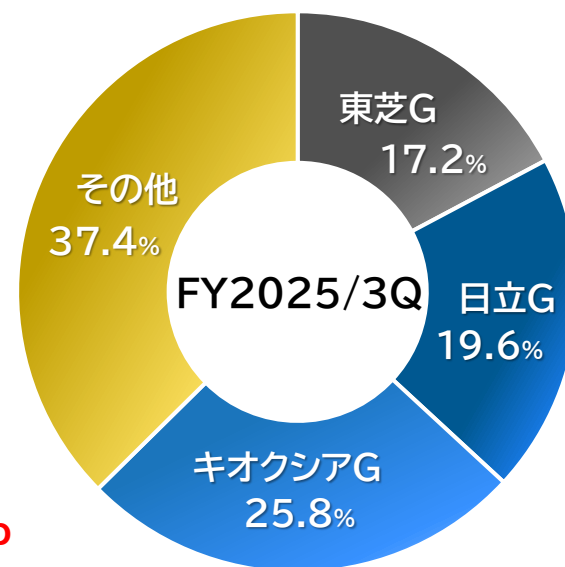
取引先別売上高(FY2025/3Q)

キオクシアGが順調に拡大
東芝G、日立Gも安定
その他取引先が大幅伸長

売上高(取引先別) (単位:百万円)



売上比率(取引先別)



四半期別売上高・営業利益(FY2025/3Q)

3Q累計売上高 : 30億33百万円

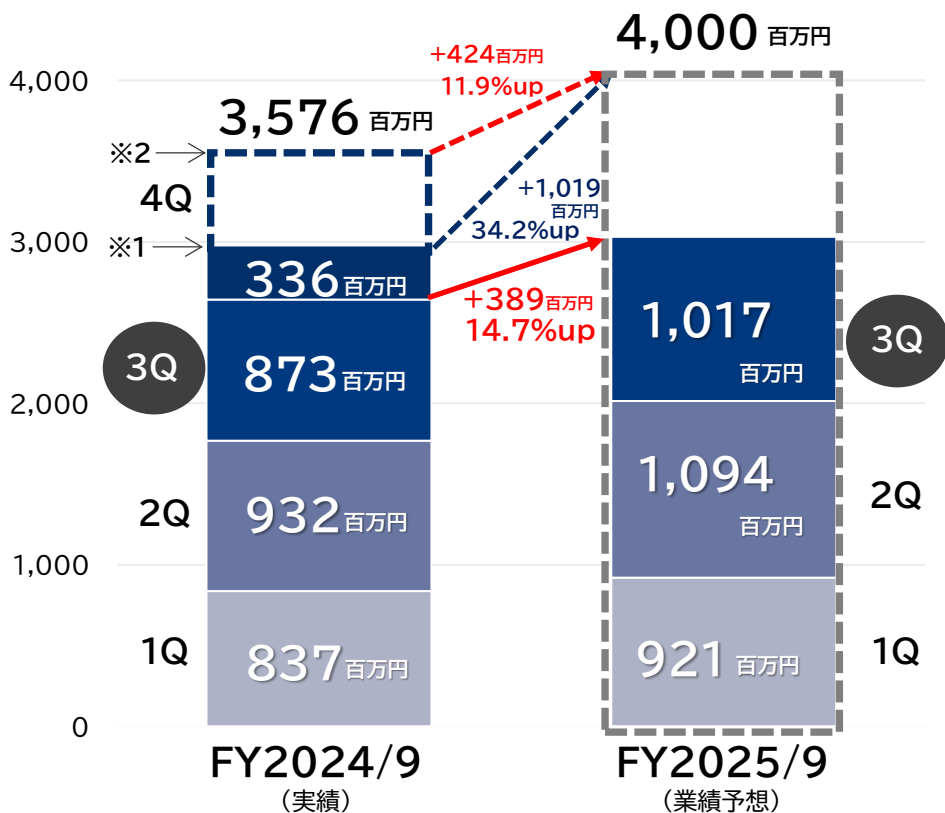
増加額: **+389百万円 14.7%増加** (前年同四半期比)

3Q累計営業利益 : 5億33百万円

増加額: **+72百万円 15.6%増加** (前年同四半期比)

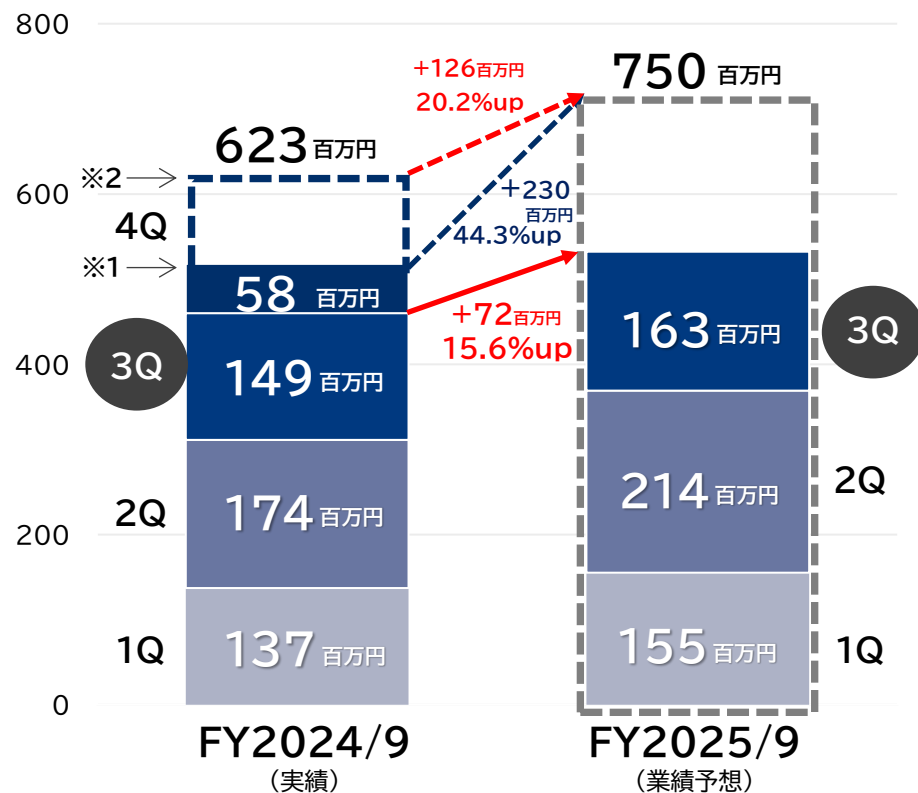
(単位:百万円)

売上高



(単位:百万円)

営業利益



※1 決算期変更に伴うFY2024(10ヶ月変則決算)実績との単純比較であります。

※2 12ヵ月換算の参考値としてFY2024通期実績に12/10を乗じて算出した値との比較であります。

(全体)主要取引先動向

米国の通商政策等による不透明感がみられるものの、半導体市況は緩やかに回復しています。また、国内経済についても、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果による回復傾向に変更はありません。DX、AIなどの情報化(IT化)関連のデジタル投資や省力化・合理化等のためのソフトウェア投資は引き続き拡大傾向にあります。このように、当社グループを取り巻く事業環境は安定して推移する見込みです。一方、当社グループへの直接的な影響はないものの、米国大統領の政策による影響は引き続き不確定要素であり十分注意が必要です。

東芝G

2024年度の業績は、売上高、営業損益、当期純損益のすべてが黒字化、かつ前年同期を大幅に上回る実績となり、「東芝再興計画」初年度は好調なスタートとなりました。更なる収益拡大の実現に向けた取り組みの推進など、当社グループへの引き合いの増加が期待されます。

日立G

ITサービスを担う「デジタルシステム&サービス」セグメントでは、国内IT市場におけるDX/モダナイゼーションの追い風を受け、堅調に推移しました。この傾向は今後も継続する見通しであり、当社グループへの引き合いも増加が期待されます。

キオクシアG

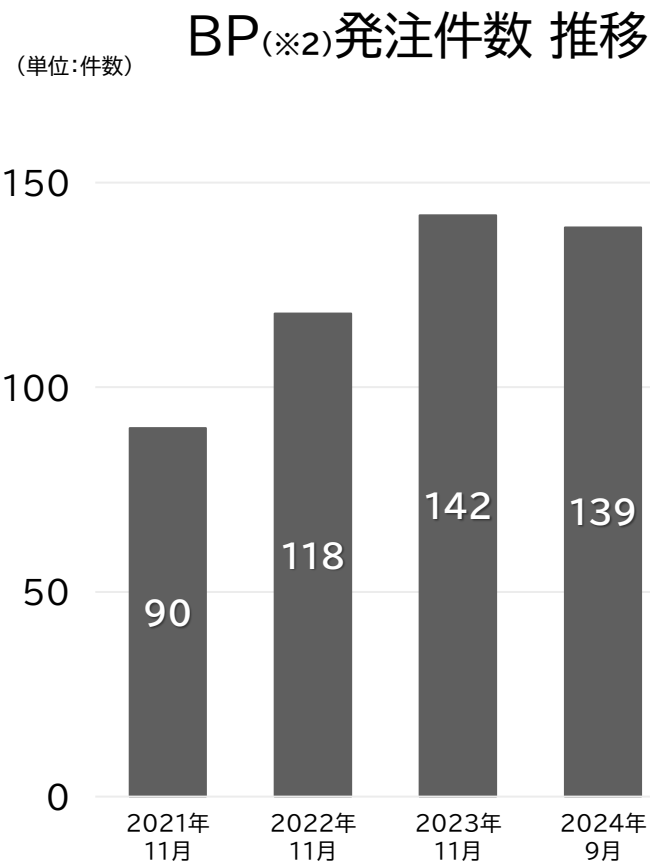
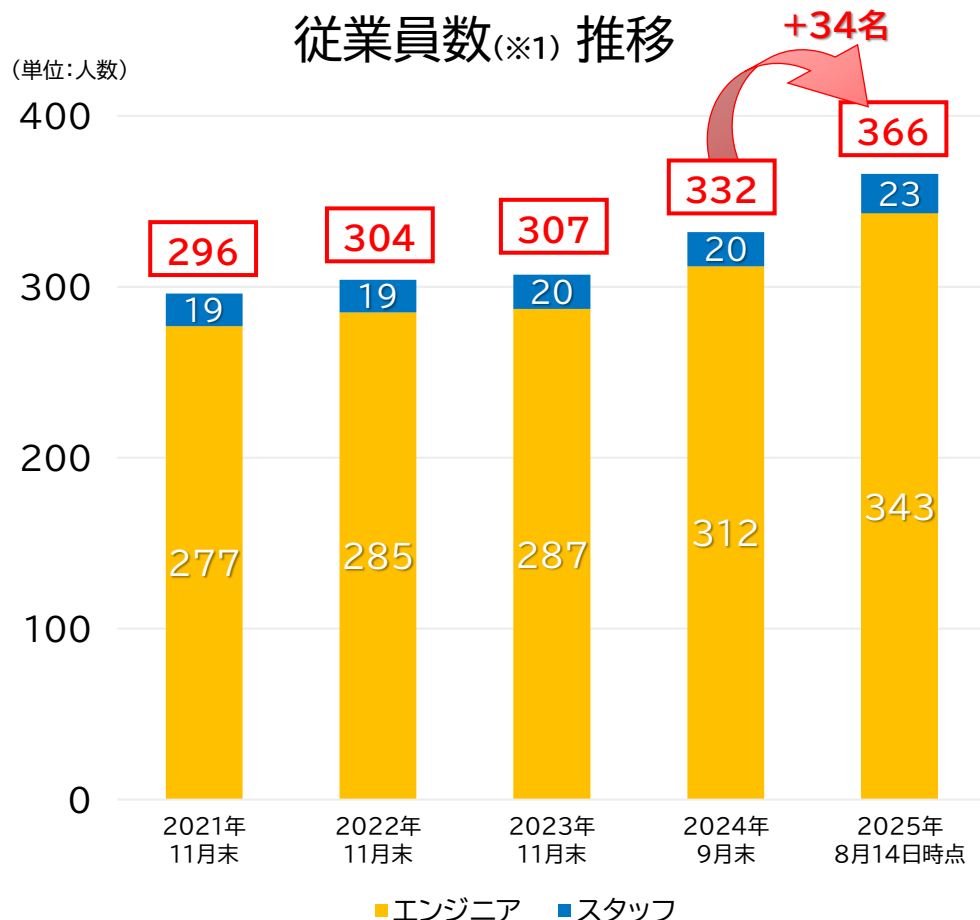
2025年3月期は過去最高の売上収益、純利益を達成しました。PCやスマートフォン向けの需要が軟調に推移しており不確実性はあるものの、AIの急速な普及による需要拡大を背景に順調に推移する見通しです。成長へ向けた投資や設備投資の拡大など、当社グループへの引き合いの増加が期待されます。

その他

旺盛なAI需要やDX化などの事業環境は今後も順調に推移する見通しです。当社グループ各社の特徴を活かした事業推進を強化しており、主要取引先3グループ以外の顧客との取引拡大が期待されます。

今期目標(377名)達成に向け推進中

子会社間の連携強化によりエンジニアリソースの確保に努める



※1 ティアンドエスグループ全体

※2 BP…ビジネスパートナー 業務委託等の形態で当社業務に従事するエンジニア

連結損益計算書(FY2025/3Q)

連結損益計算書(FY2025/3Q)

単位:千円	FY2024/3Q	FY2025/3Q	増減額	増減率
売上高	2,644,378	 3,033,776	389,397	14.7%
売上原価	1,868,178	2,132,929	264,751	14.2%
売上総利益	776,200	 900,846	124,645	16.1%
販売費及び一般管理費	314,839	367,306	52,466	16.7%
営業利益	461,361	 533,539	72,178	15.6%
(営業利益率)	(17.4%)	(17.6%)		
経常利益	461,814	 534,286	72,472	15.7%
(経常利益率)	(17.5%)	(17.6%)		
四半期純利益	317,117	 351,939	34,822	11.0%
(四半期純利益率)	(12.0%)	(11.6%)		

連結貸借対照表(FY2025/3Q)

単位:千円	FY2024/9	FY2025/3Q	増減
流動資産	2,774,116	3,127,212	353,095
固定資産	146,982	261,626	114,643
資産合計	2,921,098	3,388,838	467,739
流動負債	424,302	594,794	170,492
固定負債	60,985	64,403	3,418
負債合計	485,287	659,197	173,910
純資産合計	2,435,811	2,729,640	293,828
負債純資産合計	2,921,098	3,388,838	467,739

業績予想進捗率

2025年9月期 3Q現在

(テーマ) 何かが始まる

単位:百万円	2024年9月期 通期(実績)	2025年9月期 通期(予想)	2025年9月期 第3四半期(実績)	進捗率(%)
売上高	2,980	4,000	3,033	75.8%
営業利益	519	750	533	71.1%
経常利益	520	750	534	71.2%
当期(四半期)純利益	321	492	351	71.5%

T&Sグループ
全体

取引先からの引き合いは好調を維持し、当社グループ全体の業績は順調に推移する見通しです。引き続き、分社化による各社の特徴を活かした事業拡大の推進とそれに伴う事業基盤の拡充を進めてまいります。

T&S システム開発
事業本部

半導体メーカーをはじめとする主要取引先からの継続案件及び新規案件の引き合いは引き続き好調を維持し、業績は堅調に推移する見通しです。システム開発からシステム運用保守業務へ移行する割合が高く、長期にわたる受注体制は今後も維持継続が期待できます。主要取引先からの大規模開発案件を受注し、当期から来期にかけての業績に寄与する見通しです。

T&S ITサービス
事業本部

主要顧客からの需要が引き続き堅調であり、期末にかけて業績は順調に推移する見通しです。新たに2社の新規顧客を獲得し、加えて新規ビジネスパートナーも5社増加するなど、事業基盤の拡充が進んでいます。引き続き、既存顧客との関係深化と新規開拓の両輪で成長を加速させる方針です。

イントフォー

季節要因による一時的な受注減はあったものの生成AIやエッジAIに関する引き合いは好調を維持し、期末に向けて新規案件及び継続案件はともに増加する見通しです。分社化による独自性を徐々に強めていき、足元の事業拡大と独自の中期成長戦略を並行して進めてまいります。

TSシステム
ソリューションズ

既存顧客との取引が拡大するとともに、新規顧客との取引も順調に立ち上がり、中途採用の強化と人材育成、ビジネスパートナーとの連携を進めることで、期末にかけて業績は堅調に推移しています。DXを軸に、さらなる成長を目指してまいります。

エクステージ

当2Qから連結範囲に入り、グループ内の案件に人材を積極投入していくことで売上拡大に貢献中です。強みであるアプリケーション開発やインフラ構築の分野に関して、目標とするワンストップソリューションの役割を果たしてまいります。

株主還元

累進配当(※)を導入します

(※)累進配当とは、原則として減配せず、配当の維持もしくは増配を行う配当政策をいいます。
当社では可能な限り每期増配することを目指します。

配当の基本方針

当社は、**将来の成長が見込まれる分野における新しい技術取得への投資を通じて企業価値を向上させる**ことを経営の重要課題と位置付け、これを実現することが株主に対する利益還元であると考えております。利益配分につきましては、当該企業価値向上を実現するために必要な内部留保の確保を優先しつつ、業績を考慮した**累進配当を継続して実施**していくことを基本方針としております。

2025年9月期につきましては、1株当たり8円の配当予想を公表しておりましたが、上記方針に従い、1株当たり10円(2円00銭増配)の配当予想に修正いたしました。

配当に関連する財務指標は以下のとおりです。

	1株あたり配当金	配当性向	株主資本配当率 (DOE)
2024年9月期	8円00銭 内訳：普通配当 7円00銭 記念配当 1円00銭	18.9% (10ヶ月変則決算のため)	2.5%
2025年9月期 (予想)	10円00銭	15.4%	2.9%

お問い合わせ先

ティアンドエスグループ株式会社

経営企画IR部

Email / pr@tecsvc.co.jp

URL / <https://www.tecsvc.co.jp/>

本資料に掲載されている情報には、将来の見通しに関するものが含まれています。これらの情報については、現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その実現や将来の業績を保証するものではありません。経済状況の変化や一般的な業界ならびに顧客ニーズの変化、法規制の変更等、様々な要因によって当該予想と大きく異なる可能性があります。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合において、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新又は改訂を行う義務を負うものではありません。